

審議会等の会議結果報告書

課所名

社会福祉課

会議名 第4期地域福祉計画推進協議会

開催日時 令和5年 5月 19日(金) 13時 00分 から 14時 32分まで

出席者
○委員 (敬称略)
宮下和昭 岩波健一 矢崎敏江 小島光治 原田正男 小口家立 河西敏夫 伊藤秀一
守屋和則
○部員
藤森孝昭 三村伸彦 濱秀憲 雨宮寛之 長島一幸 小松憲一 小口隆 有賀恵
伊藤光子 北原潤 矢澤祐美 櫻井幸雄 北沢将広 大羽伸弥 飯田洋一 河西瞭
小松直斗

資料 次第、委員名簿(出欠確認)、令和4年度 諏訪市地域福祉計画 実績評価シート
令和4年度 第4期諏訪市地域福祉計画 実績評価シート 総括表

1 開会(事務局 雨宮)

○新任委員の紹介

諏訪市民生児童委員協議会 小島 光治 様
豊田地区社会福祉協議会 武井 良地 様
中州地区社会福祉協議会 河西 敏夫 様

2 会長あいさつ(宮下会長)

3 健康福祉部長あいさつ(事務局 守屋)

4 報告・協議事項

(1) 第4期諏訪市地域福祉計画 令和4年度の取組について
(進行:宮下会長)

○令和4年度の取組状況について報告 資料 諏訪市地域福祉計画 実績評価シート

第4期諏訪市地域福祉計画 実績評価シート 総括表

- ・地域福祉計画について取組状況の報告 (事務局 飯田)
- ・地域福祉活動計画について取組状況の報告 (社協 桜井局長)

○取組に対する質疑

<地域福祉と地区社協の衰退について>

・地区社協全体の活動が衰退しているように感じる。活動する人員が不足していること、年齢層が高齢者で固定されてきており、新しい意見が出にくい状況が大きな課題ではないか。また、説明の中で計画の推進体制・地域の人材について話があったが、人材を探す対応についても考えていく必要があると感じている。地区社協の現状と動きを踏まえた上で現実的な計画推進を図ってほしい。(委員)

→コロナの3年間でどう活動していいのかといった部分をより考えるようになった。地域とのつながりや絆のようなものが減少してきているように日々感じている。ポスト(アフター)コロナを迎えた今年度からは、地域とのつながりや地区社協、地区担当職員などと協力しながら事業を進めていきたいと思っている。併せて、各地区でもお話をさせていただく機会を作り、必要な対策を一緒に考えながら進めていきたい。(社協)

→地区長たちの目指す地域福祉と、社協の目指す住民福祉・地域福祉の行き着くところは一緒だと考えているため、今後の協議を重ねて検討したい。(社協会長)

→地区社協だけにとどまらず、関連する各団体や地域ボランティア等も絡めながら一緒に活動をしていくことで、地区社協の存在や活動意義を広く地域住民の方々を知っていただければと思っている。広く理解いただくことで、今後の地区社協活動、福祉活動の推進及び継続につながるのではないかと考える。(社協)

○取組に対する意見、感想及び活動の中で感じていることについて

<民生児童委員の活動から感じる地域福祉について>

・民生児童委員の活動でも一期で任期終了される委員の方々が半数を占めており、コロナ前の活動状況を知っている委員が少ない点に問題を感じている。推薦委員の力も借りながら福祉計画に沿った民生児童委員活動の役割を担っていきたい。(委員)

<児童教育と福祉、計画と地域をつなぐ環境づくりについて>

・これからを担う児童教育において福祉分野の教育にも力を入れてほしい。福祉意識の高い児童たちの成長を促すとともに、子供たちと福祉をつなぐ環境づくりに配慮いただけると嬉しく思う。

・学校運営協議会や社会福祉協議会、他の関連団体、地区の老人クラブ等とも連携を密にして、横に広がった活動を進めていただければありがたい。最終的な到達点が同じ内容であっても、地区ごとでのやり方の過程が異なる部分も多いかと思う。各地区の公民館や学校等も社会福祉の活動拠点として活用することで、より身近に集まれるような周知の工夫・環境作りもしていければと感じる。

・子育て支援、自主防災について:人手不足が問題となっているが、多くの人たちで支援の輪を築いていくことが大切。地域の協力、連携体制につなげられる環境づくりができる社会を構築できないかと考える。(委員)

<コロナ禍による地域社会の変化について／その他>

・医療・福祉の現場が疲弊し、地域活動への協力が得られにくくなったように感じる。また、地域においてもつながりが希薄化した社会に変化してきたのではないだろうか。デメリットを多く感じる一方で、IT化が進みネットワークが普及した点はメリットではないかと思っている。ネットワークを活用することで地域活動を広げる糸口にできたらいいと考える。

・困難事例への支援は、問題が複合的に絡み合っているケースが多い。重層的なチームケアができるように計画に盛り込んでほしい。

・実施評価シートにある、英語表記の略語(GTFS-JP、C-DAP等)は伝わりにくいため、近くに意味を併せて表記してもらいたい。(委員)

→GTFS-JP:標準的なバス情報フォーマット。バス利用者が現在のバス運行情報を得るためのツール(かりんちゃんバスに関する内容で記載)。

(地域戦略・男女共同参画課長)

C-DAP:地震や水害といった災害時のシチュエーションを想定して、時間帯や時系列等に沿った行動をグループワーク(机上訓練)で考えるもの。模造紙を使ってワークをすることで、参加した人たちと災害の共通認識を図る。(社協)

<障がい者支援に対する体制構築について>

諏訪市は障がい福祉推進都市でもあるため、障がい者支援も積極的に進める計画作成をしてもらいたい。課・係ごとの縦割り体制だけでなく、連携した重層的な支援体制を構築して推進力強化を図ってもらえればと思う。また、まいさぽ利用や成年後見人等についても目に見える形での数値・成果が公表されてもいいのではないかと考える。(委員)

<ボランティア参加への課題と福祉教育について>

・ボランティアを担う人たちの高齢化及び固定化、減少が気がかりである。高齢者だけでなく、若者世代もボランティア活動参加につなげられる方法を模索していきたい。

・児童への福祉教育について、学校での学びだけでなく地域内での教育も大切に感じている。コミュニティスクールなどの活動を活性化させることで、ボランティア精神の向上や若者世代の参加につなげていけないだろうか。(委員)

<行政と地区をつなげる課題、これからの計画策定に向けて>

・3年間続いたコロナ禍とその中での行政の役割を振り返ると、福祉制度づくりや個別支援を援助できる体制づくりに強みがあったように感じている。一方で、地域の細かい部分にサービスを届ける仕組みについては弱みを感じる場面が何度かあった。

そんな中の地区社協をはじめとする様々な地域団体の活動によって行政の弱みを補ってもらいながらも今日を迎えたように思っている。今日出してもらった質疑・意見等も含めながら、これからの地域づくりについて検討をしていきたい。

・これからの社会についても「人口減少・縮む社会」といった課題があり、新聞でも取り上げられている。「縮む社会」にどう向きあっていくか、担い手不足をどう解消するか、といった地域課題について第5期の計画作成にも落とし込んで考えていきたい。

・「地域共生」「多職種多機関の連携」「誰ひとり取り残さない社会」これらのキーワードについて一つ一つを整理しながら計画策定につなげていきたい。(健康福祉部長)

<昨今の福祉課題の洗い出しと住民共有について>

・福祉の原点部分であった対面・対話が、コロナ禍の生活によって途切れてきたように感じる。地区協議会や懇談会の機会を多く持つことで課題の洗い出しと共有を行っていききたい。合わせて、地域共生やボランティア活動への参加についても地域住民に呼びかけていくことで、多くの市民参加につなげる活動を行っていききたい。(社協会長)

5 コーディネーター総評(松本短期大学 合津先生)

・新生への授業で「地域とのつながり」を個々で考え、グループワークで協議する授業を行った。生徒からの意見量が少なく、コロナ禍によって地域とのつながりが希薄化していることを感じる結果となった。地域に育てられた実感のない子供たちが増えており、地域共生社会や地域包括ケアシステムといった内容を教えていくことの難しさを感じている。

・第3期の地域福祉計画から関わらせていただいております、できるだけ具体的な計画立案やそのための達成事業、達成期間等についてアドバイスを行ってきた。第4期地域福祉計画の4年目で数値的な目標が入った綿密な評価が入り、諏訪市地域福祉計画が大きな前進をしたように思っている。策定に関わる多くの皆さんの尽力に敬意を表したい。

・地域づくりを進めていくために、福祉コミュニティの3つの要素が大事になってくる。

地域性、協働性、福祉性といった部分を大切に、福祉の街づくりをしてほしい。人々の意識としては「地域とつながらなくても一人で楽しめる」、「それぞれのニーズが地域以外でも充足できる」といった考えが増えてきているように感じるため、そこに対するアプローチも必要になってくるように感じるため、地域に目を向けてもらうための活動を2つ提案したい。

① 福祉と防災について

災害支援・防災を切り口にして、地域福祉活動の充足を図っていく。

② 中間サービスの利用

地域での移動販売や会社の福祉活動支援等、インフォーマルなサービスも取り入れた計画策定をしていくことで、希薄化してきている福祉のつながりを強化していく。

・連携は大切だが、どういう連携を図るのか、どことのつながりを深めていくかといった部分にも目を向ける必要がある。また、別地区の活動を広くつなげていくための発信をしていくことで、地域福祉の発展にもつながると考える。今後の計画策定のヒントにしてもらえればうれしい。

・諏訪市の地域福祉に7～8年程関わらせていただき、多くのことを学ばせてもらった。ありがとうございました。

6 その他

7 閉会(事務局 雨宮)

終了時刻 14:32